

皆さん、新年明けましておめでとうございます。令和3年・2021年がスタートしました。皆さんはどんなお正月を迎えましたか。今年は寒波と新型コロナの影響からスティホームで静かなお正月だったという人も多かったのではないのでしょうか。

さて、毎年話題にしていますが、今年2021年は60年で一周りする干支のうち38番目にあたる「辛丑（かのと・うし）」の年です。今年がどうなるのか、先が読めないコロナ禍の時代だからこそ、未来に起きる出来事を知るために生み出された暦のシステムである干支の意味から占ってみます。

十干と十二支は、それぞれ植物の一生を表しています。「辛（かのと）」は「草木が枯れ、新しくなろうとしている状態」。「丑（うし）」は「発芽直前の曲がった芽が種子の硬い殻を破ろうとしている状態」を意味しています。

前回の「辛丑」は1961年でした。どんな年だったかという、前年に就任した池田勇人首相が掲げた所得倍増計画のもと3年後の東京オリンピックに向け経済は活気づき、坂本九さんの歌う「上を向いて歩こう」が流行しました。アメリカでは前年、大統領選に勝利した民主党のケネディが「ニューフロンティア」を掲げて就任し、43歳と若くリベラルな大統領の誕生に世論は沸きました。

また、ソ連のガガーリン飛行士が有人衛星の地球一周に初成功し、「地球は青かった」という言葉を残しました。一方旧東ドイツが東西ベルリンの境界を封鎖し、冷戦の象徴となるベルリンの壁が築かれ、世界を揺るがせました。

「辛丑」は辛く大変な出来事を乗り越えて殻を破る新しい局面が見られる年であると言われていきます。2021年を迎え、以前、新型コロナの試練は続いています。1都3県には今日にも非常事態宣言が発令される予定です。2021年はコロナ禍でまだまだ忍耐が必要な年かもしれませんが、そんな辛いことが多いだけ、大きな希望が芽生える年であると期待したいものです。

ところで、皆さんはGRIT（グリット）という言葉を知っていますか。

GRIT（グリット）とは「やり抜く力」のことで、「Guts ガッツ（度胸）」「Resilience レジリエンス（回復力）」「Initiative イニシアチブ（自発性）」「Tenacity テナシティ（執念）」の頭文字G・R・I・Tと、気概や闘志をあらわす「GRIT」をかけた言葉です。アメリカの心理学者であり、ペンシルヴァニア大学のアンジェラ・ダックワース教授は、成功者は共通して、このグリットを持つ傾向にあると提唱しました。彼女は世界有数のコンサルティング会社マッキンゼーで勤務した後、ニューヨークの公立中学の数学教師をしていた際に、成績が優秀な学生の共通した特徴は、頭の良さや生活環境ではないことに気づきました。

そこから大学に戻り研究を続けた結果、『成功する人に共通する特徴は「情熱」と「粘り強さ」、すなわち「やり抜く力（GRIT）」である』と結論付けます。2013年には、人生で何を成し遂げられ

るかは「生まれ持った才能」ではなく、「情熱」と「粘り強さ」によって決まる可能性が高いと突き止めた研究活動が評価され、別名天才賞と呼ばれる「マッカーサー賞」を受賞しました。父親に「才能がない」と言われ続けながらも、「情熱」と「粘り強さ」で自分のやりたいことを徹底的にやり抜き、天才賞を獲得した彼女の人生そのものが、その主張を裏づけています。

2016年に発売された書籍「Grit: The Power of Passion and Perseverance」はベストセラーとなり、日本でも「やり抜く力——人生のあらゆる成功を決める『究極の能力』を身につける」というタイトルで発売されました。

やり抜く力と聞いて、イチロー選手のことを想像する人も多いのではないのでしょうか？イチロー選手の言葉で、「特別なことをするために特別なことをするのは、特別なことをするために普段どおりの当たり前のことをする。」

「努力せずに何かできるようになる人のことを天才というのなら僕はそうじゃない。努力した結果何かができるようになる人のことを天才というのなら僕はそうだと思う。」

1つ1つは地味に見えることを、ひたすら継続するというのは GRIT が高い人に共通している部分です。

バイク・自動車の本田技研工業創業者の本田宗一郎氏はこう言っています。

「私の最大の光栄は、一度も失敗しないことではなく、倒れるごとに起きるところにある。」「得意な道を一生懸命に打ち込んでおりさえすれば、チャンスは必ずある。」「倒れるごとに起きる」という精神はまさに GRIT そのものだと言えるでしょう。

自ら「やり抜く力」を伸ばすには、興味・練習・目的・希望の4つのステップが重要と著書の中で紹介しています。その中から4つめの「希望」を紹介します。

「希望」は困難に立ち向かうための「粘り強さ」の源でもある。希望は、最初の一步を踏みだしてからやり遂げるまで、あらゆる場面に関わるものであり、ときに困難にぶつかり不安になっても、ひたすら自分の道を歩み続けるために必要不可欠のものだ。「希望」の持ち方を学びたい人は、次のステップを試してみるといい。

- ・ 成長思考を持つ

 - ＝人は変われる、成長できると信じて一生懸命努力すれば、自分の能力をもっと飛ばすことが可能だと考える

- ・ 楽観的に考える

 - ＝意識して悲観的な考え方を止め、物事を楽観的に捉え、考えるトレーニングをする

- ・ 結果、逆境でも粘り強く頑張れる

GRIT（やり抜く力）は生まれつきの才能とは無関係なので、だれでも、努力すれば後天的に伸ば

すことができます。

ただし、努力することは忍耐強さが必要です。大事なのはラクをしないということです。誰しも苦しくなると無理かなとか、やっぱり自分には才能がないからできないとあきらめてしまいがちです。でもそれは自分が納得できるいいわけをつくって、ラクをしているだけかもしれません。それではいつまでたっても目標を達成できません。今年が丑年。ゆっくりでも粘り強くあきらめないで着実に前へすすむことをこころがけてみましょう。

さて、3年生は特編授業も10日あまりとなり、初めての共通テストに向けて頑張っている3年生は最後まであきらめず粘り強く今まで蓄えた力をここぞとばかり発揮してください。そして、3年生は高校を卒業し、新しい世界に飛び立つ年になります。

1・2年生はこの3学期が1年間のまとめの学期となります。内なる力を蓄えるとともに自分の目標を見出して、学習やクラブ活動をやり抜いてください。

皆さんにとって、幸せな年になりますよう祈念して終わりにします。